

オンライン参加者から頂いた質問と回答

報告② 「高専生企画による小中学生の学びの場」について		
番号	質問	回答
1	小学生に「放射線はわからないけれど怖い」と言われた時、どう答えましたか。	エフレイの専門家は事前に高専生へ、身の回りの放射線についての説明を行いました。また開催当日には、高専生による実験を行う前に、エフレイの専門家が小学生（低学年）に身の回りの放射線についての解説を行いました。これらを踏まえ、高専生からは、「これから放射線を遮る実験を実際に体験して放射線の性質を理解してほしい」と小学生に回答しました。 今回の企画では、若い世代が答えきれない場面を想定して、エフレイの専門家がつきそっておりましたが、小学生の疑問にどのように答えたらよいかを考えてもらうことができ、高専生にとってもよい学びの機会になったと捉えております。
2	「小学生からの質問に対して答えに詰まったことがある」という発言がありました。具体的にどのような内容だったのでしょうか。それに対する答えは高専生以外の方がされたのでしょうか。	例えば、放射線計測では計測値の「平均値」など高校生や高専生であれば一言で済む概念について、高専生は小学生に説明するという機会がこれまでなく、わかりやすく説明するには概念の根本的な意味が理解できていないとうまく説明ができないという重要なことへの気づきがありました。
3	この企画が始まる前、多分高専生が答えきれない質問や場面が出てくるとある程度予想されていたのでは？と思います。その際には大人が答える準備ができていたのでしょうか？ また、若い世代が答えきれないことも予想される中、それでもこの企画を実施しようとなさった意図をもう一度お聞かせください。	小学生には、年齢が大人よりも近い高専生から指導を受けることで、質問がしやすく学びやすいと考えました。また、高専生には、小学生に教えることで自らの学びの場にもなると考えました。 霧箱で放射線を見る実験は簡単に成功するように見えて、実際には失敗することが良くあります。例えば、隣の班は成功したけれども、自分の班では確認することができなかったことが無いように、高専生たちは練習を何度も行い、コツを掴むことができ、成功のポイントを見つけました。さらに、高専生は事前に教える側と聞き手に分かれ、小学生にわかるように言葉を選びながら説明をする練習を行いました。当日は、参加した小学生全員が霧箱での観測に成功し、小学生にとっても高専生自身にとってもよい学びの機会になったと考えています。 なお、高専生が回答や説明に困るような場合に備えて、エフレイの専門家、引率教員が近くでつきそっておりました。